



## \*\*\*私たちと一緒に働きませんか—看護師さんを募集しています\*\*\*

### 入院患者家族専用駐車場パスカードの導入について

平成20年1月15日から、入院患者家族専用駐車場パスカードを導入いたしました。

患者さんの声の中にも「その都度、看護師さんに無料パンチをしてもらうのは、ナースステーションにいない時等もあり、忙しい中、大変心苦しい。家族が無料で駐車できる何か別の方法を検討してほしい」というご要望もあり、検討していたものです。

この導入で、入院患者さんのご家族が便利に、また、無料化措置に対する看護師の負担が軽減されればと考えております。

導入後、4か月余りを経過いたしました。特に支障もなく、患者さんから感謝の声を頂くなど、大変好評です。



#### 駐車場に関する患者さんの声

以前、「午前10時の駐車場対策」をお願いした者です。さっそく増設していただきありがとうございます。また、寒い中、係の方にも案内をいただきスムーズに駐車できるようになり感謝いたします。また、入院患者家族のパスカードも作って下さり大変便利に利用させていただいております。ありがとうございます。今までのパンチと比較して看護師さんたちの雑用もグッと減ったのではないのでしょうか。その分、医療・看護に集中してこまやかに対応していただいていると実感しています。駐車場とパスカードの導入、大がかりな設営をありがとうございます。

2008.2.7 氏名:〇〇〇〇 住所:南アルプス市

### 面会時間の変更について

かねてより面会時間の延長の要望をいただいております。院内で検討してまいりました。

お見舞いの方との面会が慰めや励ましになるというお申し出もありますが、病院は第一に治療の場であり、静かな環境の維持を望む声も多数いただいていることから、面会終了時刻の延長はせず、平日の面会開始時刻を1時間早めることといたしました。

なお、面会の場所に関しましては、同室の方にもご配慮いただき、原則として、デイルームとし、併せて面会開始、終了時刻の厳守をお願いいたします。

#### \*\*\*面会時間\*\*\*

平日

午後2時～午後7時まで

土曜、日曜、祝日

午後1時～午後7時まで

### 食堂改装、オープンテラス開設について



左から、鈴木看護部長、星病院長、里仁会佐藤理事長

かねてより皆様からのご要望が多かった事項に関して検討し、レストラン、食堂の改修を行ってまいりましたが、このたび完成し4月1日から利用開始となりました。

改修され明るくなったレストランは「グリルコール」から、「クロスカフェ」と店名が変わっただけでなく、メニューも変更し、テイクアウトなどを取り入れ、より利用しやすくなったと好評です。和食、麺類の食事処「つどい」の改修も終り、席数も増やしました。

また、「売店」は土曜、日曜、祝日を除き、24時間営業としました。

オープンテラスは、ヨーロッパ調にデザインされた落ち着いた色合いで、「クロスカフェ」からの眺めも以前に比べ大分違った雰囲気のものとなっています。このスペースは、イートインコーナーとして談話・飲食にも利用可能です。



新設されたオープンテラス

### Q&A 退院アンケートから

Q パジャマは着替えなくてもお金を払うのですか？

A パジャマは、1日あたり70円の費用がかかります。これはパジャマの洗濯にかかる費用ではなく、パジャマ自体を借りる料金です。

パジャマ交換の頻度は、その患者さんの病状や季節によっても異なりますが、週2～3回を目安にしています。

放射線部 副部長・技師長 佐野 芳知

### やさしく教えて！ 第1回

#### CTとMRIはどう違うの？

CT、MRIどこが違うのでしょうか。

CTとは、Computed Tomographyの略語で、日本語ではコンピュータ断層撮影と言います。CT検査は、X線を使い、それをコンピュータ解析して画像化します。

MRIとは、Magnetic Resonance Imagingの略語で日本語では磁気共鳴画像と言います。

MRI検査は、とても強い磁石と電波を使って体の内部の状態を検査し、放射線は使いません。一番大きな違いは放射線を使うか使わないかでしょう。

どちらも、患者さんの体を傷つけずに、体の形態や機能を観察でき、コンピュータを使い色々な角度から体の断面写真(画像)を撮ることができます。CTは輪切りの画像ですが、MRIはいろいろな角度の画像を撮ることができます。

検査方法も良く似ていて、検査台の上に寝て円筒型の装置に入って検査を行います。MRIはCTに比べて検査の時間が長く、動かないよ

うにしている時間も長くなります。

どんな病気の時にどちらの検査をするかという、非常に大まかですが、骨疾患(MRIは体の中の水分の性質を利用して検査するので、水分が殆どない骨を検査するにはCTの方が向いています)や肺疾患あるいは脳出血や腹部外傷などの救急疾患の場合には、MRI検査よりCT検査が有用なことが多く、脳腫瘍や脳梗塞、脊髄疾患、子宮・卵巣や筋肉の疾患においてはMRI検査が有用なことが多いです。疾患により、CT、MRI両方の検査をすることもあり、様々な情報を総合して診断します。

検査に対して解らないことがありましたら、遠慮することなく担当医、検査担当者に相談してください。



CT



MRI

## 看護師募集について

看護部長 鈴木久美子



今年4月1日に看護師として採用になった方は96名でした。これは、本院開院以来初めて経験する大幅な採用となりました。昨年、看護師募集について、患者さんやご家族の方々にご理解とご協力をいただき、このような採用人数の確保が実現できました。これもひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。

来年度も50名程度の看護師の増員を図り、さらに患者さん一人ひとりの話をよく聴き、「この病院に入院（外来通院）してよかった」と満足していただけるよう看護の質を高めていきたいと思っています。

そこで、今年も引き続き、患者さんやご家族の方々にご協力をお願いしたいと思います。お知り合いで看護師として本院に就職希望の方がいらっしゃいましたら、年度途中でも採用しておりますので、是非勧めていただければ幸いです。看護師募集案内のパンフレットも外来正面玄関横にありますので、ご自由にお持ちください。

## ヴラダン・コチ祈りのコンサート

第一内科 副科長 佐藤 公

去る3月12日、本院玄関ロビーにおいて、かつてドヴォルザークが院長をしていたプラハ音楽院教授のヴラダン・コチ氏とコチ氏に師事している中村理恵子氏（カルロヴィヴァリシンフォニーオーケストラ在籍）によるチェロのデュオコンサートが行われました。

このコチ氏のコンサートは、入院患者さんのひとときの慰めになればと行っており、今回で2回目となります。演奏いただいたコチ氏は『祈りのチェリスト』と呼ばれ、チェコスロバキアが旧ソ連の占領下にあった暗黒時代、軍事政権にくみせず兵役を拒否したため投獄された過去を持ち、自身の辛い囚人経験から、音楽を自分のキャリアや利益のために用いるのではなく、辛い状況にある人のために使おうと決心したとのこと。実際、『会場に集まれない人がいるのなら、私が病棟まで行きます』とも言ってくれました。今はプロの演奏家として活躍する傍ら、世界中でボランティアコンサートを開いています。



ヴラダン・コチ氏

弟子である中村氏とともに、フランクフルト作曲のチェロ・ソナタや「早春賦」「さくら」といった日本の歌をはじめ、ジャズやタンゴなどバラエティに富んだ9曲を演奏すると、聴衆からの拍手が鳴り止まず、アンコールとしてロッシェニの曲が演奏され、美しく豊かなチェロの音色に100名を超える聴衆が聴き入っていました。最後に感謝の気持ちをこめ、聴衆を代表して3階西病棟の子どもたちが花束をプレゼントしてくれました。

コンサートの開催に際し、スケジュール調整などしていただいた山口豪様ご夫妻をはじめ多くの皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。



コチ氏(右)と中村氏(左)

## 3階西病棟から

小児科 講師 犬飼 岳史



人形劇「あいさつのきらいな王さま」

3月25日に人形劇の会が開かれました。この会は、長期入院している子供達に「治療や検査を乗り切るためのエネルギーを贈りたい」という目的で、のぞみ財団（がんの子供を守る会）が行う全国事業の一環として開催されたものです。

上演されたのは、NHKテレビにも出演した「人形劇団オフィスやまいも」による「あいさつのきらいな王さま」です。劇団の人達と一体化した人形の迫力に、子供達はたちまち物語の世界へと引き込まれていきました。

4月17日には中央市の「木楽舎つみ木研究所」萩野雅之さん慶昌さん親子が遊びにきてくれました。台形、立方体、長方体の3つの形の小さな積み木をヒノキの良い香りに包まれて、夢中になって組み立てました。



ヴァンフォーレ甲府の皆さん

4月22日にはヴァンフォーレ甲府から、桜井選手、美尾選手、吉田選手とマスコットのヴァン君が遊びに来てくれました。選手のリフティングに目を瞠り、選手やヴァン君に質問をしたり、サインをもらったり、楽しいひと時をすごしました。

ご協力いただいた皆さんに心からお礼申し上げます。



積み木の会

## 新看護師長挨拶

\*ご家族が安心できる  
病棟をめざして\*



2008年4月1日付けで4階西病棟の師長に昇任しました岡村真由美です。

今年度から来年度にかけての7:1看護配置に向け96名の新採用者の看護師が入職し、その内の8名が当病棟

にも配属されました。皆一様に緊張と期待に満ちた表情で輝いています。

4階西病棟は皮膚科と第1外科（消化器外科）の混合の病棟です。県内には皮膚科の悪性疾患の入院受け入れ先がないこともあり、緊急入院の要請があれば、可能な限り入院できる体制は整えています。また、院内の緩和ケアチームや医療福祉支援センター、WOC（皮膚、創傷管理認定看護師）などと連携してチーム医療を実施しています。

私は、大学病院の役割は、高度な医療を提供していくことと考えています。当院の「一人ひとりが満足できる病院」の理念に基づいて、患者さんや家族の方に「ここの病棟に入院してよかった、看てもらってよかった。」といわれるような病棟づくりをめざして努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

## トリアージ訓練を実施しました

5月24日午前9時から「県南西部を震源とした大規模地震が発生、周辺地域で家屋の倒壊等により多数の負傷者が発生し、病院に殺到する」ことを想定



緑（軽症）ゾーンでのトリアージの様子

したトリアージ訓練を実施しました。近隣自治体を含め、病院内外から合わせて約450名の参加があり、特に今回は中央市の災害対策本部も設置され、市長を始めとする職員の皆さんにご参加いただきました。日赤ボランティアの皆さんには例年ご協力いただいておりますが、医学部の教授や学生も患者役としても参加しています。

「トリアージ」とは、災害発生時に傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置等を行うために、治療優先順位を決定するものです。本院では毎年テーマを決めてこの訓練を実施しており、今年のテーマは「連携・コミュニケーション」でした。



救急車が次々と到着し、車内でトリアージが行われます